

2. 地域連携における課題

・取組みの持続性

地域との連携を推進するには、大学と地域を繋ぐコーディネート人材の活躍が欠かせない。そのためには、専門的な知見を持ち、社会科学、デザイン、建築といった地域づくりの基礎となる領域をバランスよく融合し、それを地域の特性に即して地域をデザインすることのできる人材を育成し、地域に定着させるシステムづくりが求められる。大学全体をあげたヒト・モノ・カネ・時間の投入、人文社会科学から自然科学まで各学部が持つ専門性によるサポートも不可欠である。

・取組みに対する効果分析

地域におけるカーボンゼロの既存の好事例について、可能な限り多くの関係者へのアンケート調査等を行い、成功の要因や構造を研究・分析して、エビデンスを蓄積することが重要である。そうすることでより効率的に、優良で効果のある取組みを横展開することが可能になる。

・ネットワークづくり

本学では、「大学コンソーシアム富山」による県内高等教育機関の連携、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」（平成27年度から令和元年度）等、地域とのネットワークを構築している。これまで構築してきたネットワークを今後継続して管理・運営し、今後も「とやまゼロカーボン推進宣言」を行った富山県や「ゼロカーボンシティ」を表明した富山市をはじめとする地域と大学をつなぐと同時に、大学内においては各学部が参加する地域連携のシステム構築が求められる。

3. その他特徴的な取り組み

富山市「コンパクトシティ」

LRT（Light rail Transit）等公共交通機関の充実、まちなか居住の促進、中心市街地の活性化等、コンパクトなまちづくりによる低炭素社会の実現に市をあげて取り組む。

本学はこの取組みに構想段階から関わっている。



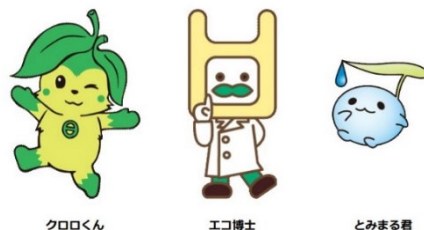
高齢者歩行補助車
「まちなかカート」



富山ライトレール
「ポートラム」

環境マスコットキャラクター

平成22年度、本学の環境配慮活動の活性化と推進を目的として、環境マスコットキャラクターの募集を行い、3キャラクターが誕生した。



クロロくん

エコ博士

とみまる君

富山大学環境塾

学生や教職員、一般市民まで幅広い方面の方々と環境問題を考え、交流する場として、平成19年度から年1回開催している。



富山新港火力発電所の見学（第13回）（令和元年度）

4. 地域ゼロカーボンワーキンググループに期待すること、幹事機関・事務局へのリクエスト

各地域の取組みを通じて出された課題等を共有し、議論・発信する場となること、また、各地域の優良事例を情報共有し、地域ゼロカーボンにつながる場になることを期待する。

5. 地域ゼロカーボンワーキンググループへの意気込み・積極的な一言

本WGにおいて、参加大学が横のつながりを密にし、連携が実働につながる流れを 作ることが重要だと考える。本WGに参加することを通して自らつながりを作っていきたい。